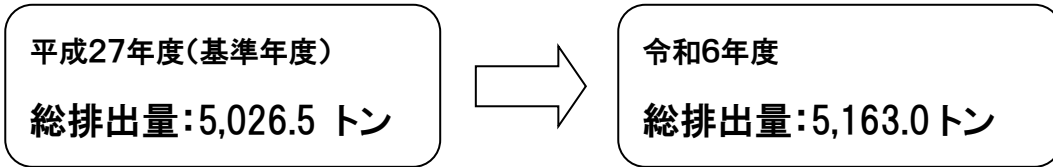


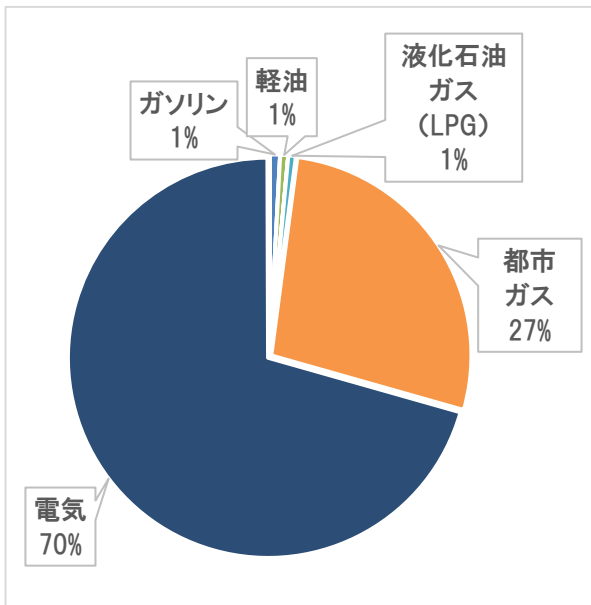
# 令和6年度温室効果ガス排出量まとめ

## 1. 温室効果ガス排出量について

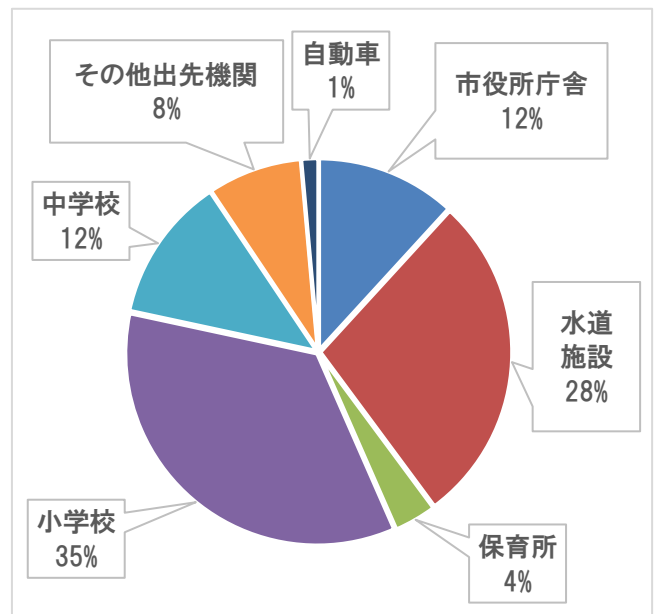


※平成27年度比2.7%増加

### ■発生源別二酸化炭素排出割合



### ■施設別二酸化炭素排出割合



## 2. 森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量

🌳 森林整備面積：5.19ha

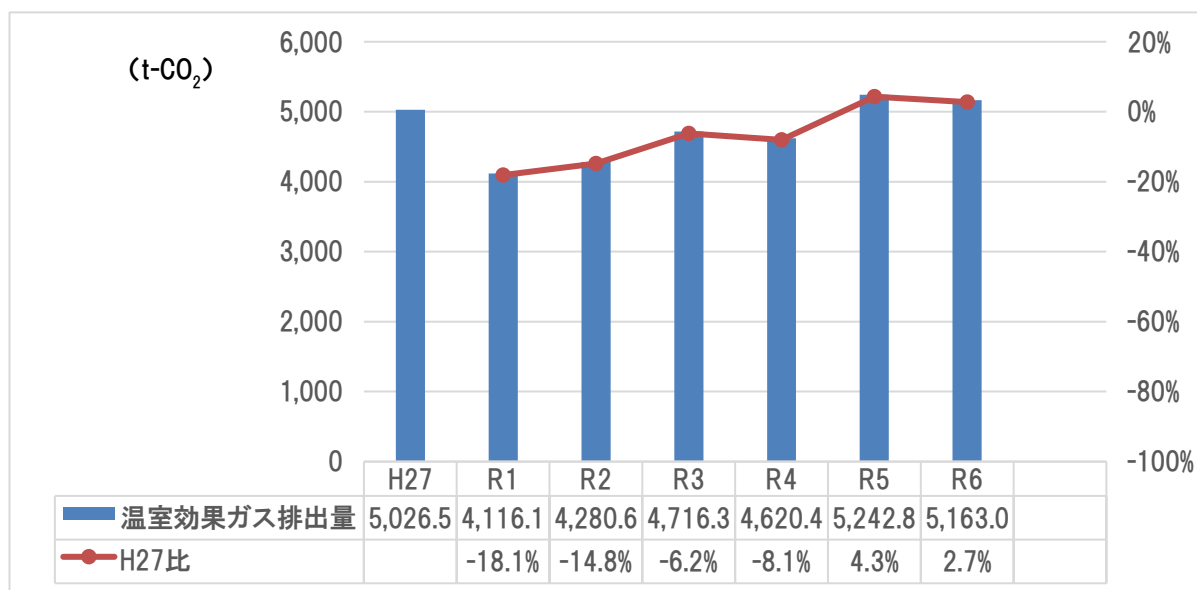
🌳 CO<sub>2</sub>吸収量：28.1t ※小数点第2位を四捨五入している。

H27年度比  
3.7%増加

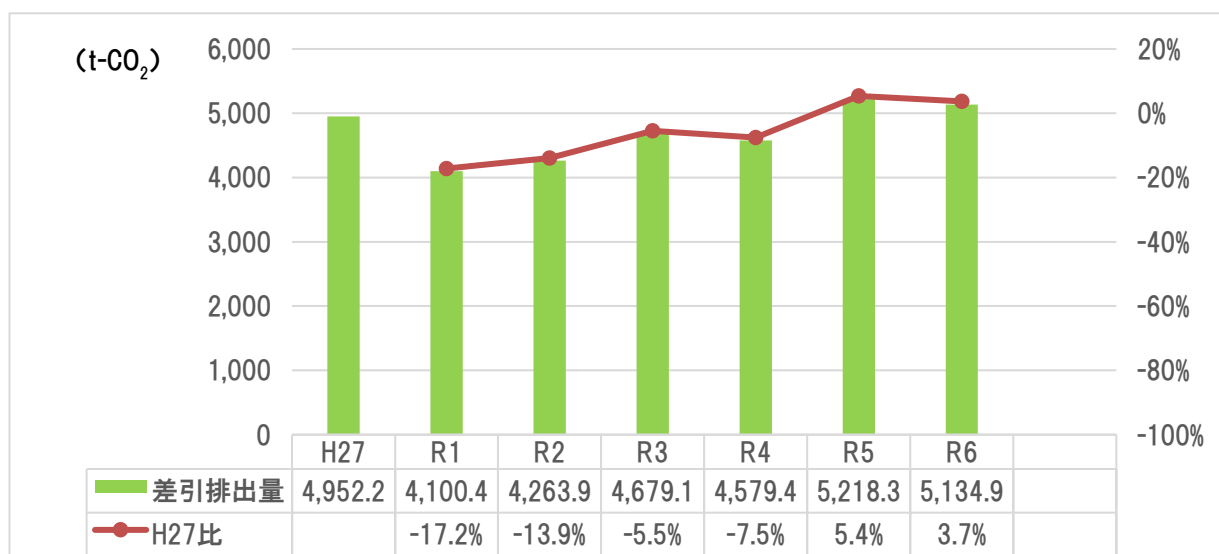
**全体(総排出量 5,163.0t－森林吸収量 28.1t)＝5,134.9t**  
※平成27年度総排出量 4,952.2 t

## 《推移》

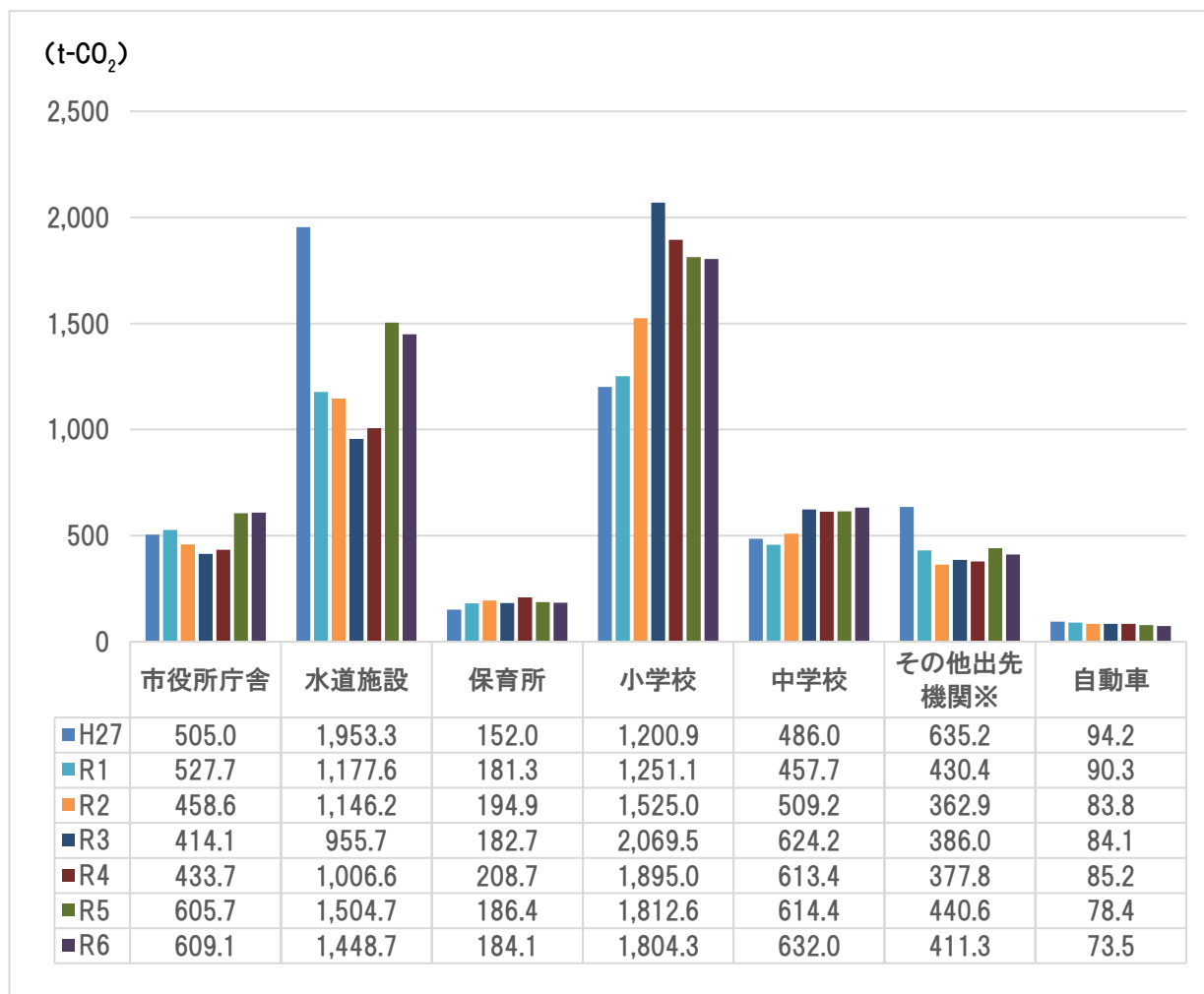
### ① 温室効果ガス排出量推移



### ② 温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移



### ③ 施設別の温室効果ガス排出量推移



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

### 《考察》

令和6年度に市関係施設から排出された温室効果ガス排出量は、5,163.0 tであり、第六次長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成27年度の温室効果ガス排出量5,026.5 tと比較すると、2.7%増加する結果となりました。

算定結果に大きな影響を与える電気の排出係数自体は、平成27年度よりは低い水準です。一方で、平成30年度から令和2年度にかけて中学校給食の導入といった行政サービスの拡充も行っており、エネルギーの使用量については平成27年度よりも大幅に増加しており、そのことが基準年度より温室効果ガス排出量が増加している要因となっています。

前年度との比較で見ると、温室効果ガス排出量は、令和5年度5,242.8 tに対し、79.8 tの減少と、ほぼ横ばいの結果でした。発生源の中で大きな割合を占めるのは電

気由来のものであるため、電気使用量の多い本庁舎や浄水場において、移転や工事等のイベントがある場合は大きな影響が出ますが、令和6年度はそういったイベントがなく、前年度とほぼ同等の結果となりました。

温室効果ガスの吸収源である西山の森林 CO<sub>2</sub> 吸収量については、令和6年度整備面積 5.19ha に対し、28.1 t-CO<sub>2</sub> の吸収量が認定されました。森林吸収量を差し引いた後の温室効果ガス排出量では、基準年度の平成27年度が 4,952.2 t-CO<sub>2</sub> であったのに対し、令和6年度は 5,134.9 t-CO<sub>2</sub> となり、3.7%の増加となりました。

2050年ゼロカーボンシティを目指す市の行政として、今後も省エネ推進・再エネ導入の余地を探り、取り組みを着実に積み上げていく必要があります。